

## 中心市街地活性化 調査特別委員会

### エスプラッツ 再開に向けて

六月二日

#### 第三回委員会

〔説明〕 街づくり基点施設として計画。今後、国へ都市再生整備計画を提出し、パブリックコメントを行う。その後、まちづくり交付金の申請を行い、十九年度当初オープンを目指していく。

〔質問〕 滞在型の施設計画

なので駐車場問題を解決しないと先に進めないのでは。

〔答弁〕 十七年度から共通

駐車券化事業を行っており、あわせて隣接の立体駐車場の使用方法の検討を行う。

〔質問〕 一階を公共施設にする考えはなかったのか。

〔答弁〕 全館を公共的施設で検討していたが、その後のアンケートにより商スペースとして計画を行った。

六月二十日

#### 第四回委員会

〔説明〕 佐賀市の街づくり

解決するための方策は。

## 市立病院等調査 特別委員会

### 第五次医療制度改正 内容と富士大和温泉 病院への影響について

〔説明〕 医療費適正化の観点から、診療報酬体系の見直しと療養病床の再編成が行われた。当病院では、四月でマイナス二・二％ぐらいの影響が出ている。

〔質問〕 選ばれる施設でない患者は来ない。これを

〔答弁〕 今回の改定は入院に影響するものが非常に多いことから、課題は入院患者の確保である。信頼され親しまれる病院となるよう、接遇のワーキングチームをつくるなど、地道に取り組んでいる。

### 三瀬診療所の診療報酬 改定の影響について

〔説明〕 診療報酬は、改定の影響等から、内科も歯科も過去三カ年の実績よりも



施設として位置付け、一階を商サービスゾーン、二階を公共ゾーン、三階をカルチャー・交流ゾーンとした。費用は、初期費用で土地建物購入費約九・七億円、改修工事費約六・七億円、合計約十六・四億円。管理経費で約三億円を考えている。

〔質問〕 改修は必要最小限にし、人や店に投資するなどのメリハリが必要では。

〔答弁〕 工事費や管理費は削減を行う。また、賃料を低く設定するなど、出店条

件は実態に合わせて設定する。

地元自治会や商店街などから陳情要望にいられている。

一日も早い再開と中心市街地の活性化に向け全力で取り組む。

八月七日

#### 第五回委員会

〔説明〕 一階は、集合店舗

二階は、子育て支援施設、青少年活動支援施設、他に医療健康施設、行政機関など。三階は既存の交流センターのほかにカルチャーセンターを計画している。ま

### 温泉を活用した人間 ドックの実施について

〔説明〕 古湯十旅館、熊の川五旅館との業務提携手続が終了し、利用者は増えている。

〔質問〕 数値的な目標はどれぐらいか。また位置づけは。

〔答弁〕 そもそも温泉人間ドックは、職員が経営に少しでもプラスになるようにという面から提唱している。また合併して新佐賀市とな

た、周辺の駐車場は約二千台分あり、共通駐車券サービス事業の対象は十四カ所、千百三十一台分である。

〔質問〕 パブリックコメントの結果をどう思うか。

〔答弁〕 市の活用案と、おおむね一致している。今後、この結果を参考に店舗誘致を行う。

〔質問〕 店舗誘致はどのように行うのか。

〔答弁〕 現在、商工会議所やTMO、あるいは専門マネージャと協議中だが、基

り、富士・大和地区は温泉地ということで、病院と一体化した人間ドックを行いながら、地域の振興に少しでも寄与できればという部分も加味した取り組みである。ただ施設面や人的配置が整っておらず、通常の外来診察と並行して行うため、目標は週に八名である。

〔質問〕 広報の方法は。

〔答弁〕 医療法で広報についての制限があり、限定されたものしか広報できない。

本的には公募と任意交渉とで選定していきたい。

〔質問〕 管理経費総額三億八百万円のうち主なものは。

〔答弁〕 共用部分の光熱水費が約四千六百万円。清掃が約二千万円、機械室設備の保守管理業務が約千五百万円等である。

そこで、まず市職員に利用してもらって、友達や家族に広めてもらいたいと考えている。

### 旧共立病院の取扱い について

〔意見〕 すでにこの特別委員会が設置されて数カ月経過している。例えば今年度中という期限をつけるなど、ある程度早期に期限を設定して方向性を定めるべきである。

〔答弁〕 検討する。

## 合併問題 特別委員会

七月七日

第一回委員会

六月二十九日に任意合併協議会が設置された。

これを受けて合併問題特別委員会では任意合併協議会に提案される項目等についての協議及び合併に関する付託議案の審査を行うこととした。

第一回任意合併協議会の全体会議で協議される三項目は①合併の期日は「平成十九年十月一日を目標とする」②新市の名称は「佐賀市とする」③新市の事務所の位置については「現在の佐賀市庁舎とする」ことについて委員会です承した。

七月十四日

第二回委員会

第二回任意合併協議会の全体会議で協議・決定される協定項目について、「合併の方式」は調整案のとおり「佐賀郡川副町、東与賀町及び久保田町の区域を廃し、

# 特別委員会

その区域を佐賀市に編入する「編入合併」とする。」「議会議員の定数及び任期の取り扱い」は小委員会での協議経過を見ながら引き続き検討。「合併市町村基本計画」、「都市計画の取り扱い」、「上水道事業の取り扱い」、及び「農林水産事業の取り扱い（その一）」については調整案のとおりとすることが委員会で承認された。

【質問】南部三町の編入合併に対する住民の反応は。【答弁】首長会議で早い時期に編入合併を確認されており、住民説明会にもその考えで臨んでおられるので、編入合併について特に異論はないと考えている。

【質問】三町の都市計画の線引きは、事務レベルや幹事会・首長会議ではどうなっているのか。【答弁】都市計画税や市街化区域設定の際の土地区画整理事業等による減歩率の問題等もあり、最終的には首長会議で三町とも市街化

調整区域にすることを協議会に提案することになった。

七月二十八日

第三回委員会

四十一の協定項目中、「地域審議会及び地域自治組織の取扱いについて」は、地域審議会の設置期間を旧三町一村と足並みを揃えて八年でという意見が出たことを伝え、それ以外の四十の協定項目は、調整案のとおりとすることが委員会で了承された。

【質問】川副町の下水処理場建設問題は怎么样了。【答弁】十八年度に処理場及びポンプ場の建設に着手予定だったが、現在待っている状況。合併すれば佐賀市の処理場で対応は可能であり、建設費や維持管理費用の負担を考慮し建設しない方向で調整中。

【意見】建設費やランニングコストを考えると、建設の見直しを強く求めたい。

八月十八日

第四回委員会

第三回任意合併協議会での四十一の協定項目の協議の結果、合併の市民説明会について及び合併に伴う電算システムの統合についての説明があり、第三回の任意合併協議会では委員長報告どおり全体会議において決定され、すべての合併協定項目について合意に達した。これを受け、各市・町での住民説明会の実施、九月議会への法定合併協議会関連議案提出の確認がなされた、との報告があった。

【質問】合併の市民説明会で合併の賛否についてはアンケートを取り、その結果は議会への報告や市民への広報を行うべきではないか。【答弁】市民説明会時に行くアンケートには、合併の賛否に関する意向等を聞く

予定はなかったが、設問を入れることにする。その結果については、何かしらの形で報告するようにしたい。

【報告】平成十九年十月一日合併を想定した場合、電算システムの統合作業及び検証期間を考慮すると、十二月議会での議決では時間的に厳しく、電算システム統合予算は廃置分合議案とあわせ、臨時議会で議決をお願いしたいと考えている。

【質問】法定合併協議会の委員報酬の予算額、十五万三千円の支給対象者や支給回数の内訳は。【答弁】法定合併協議会は三回を予定している。委員は学識経験者五名、共通委員二名、議員二名とし、金額は条例で定めている日額五千六百三十円で積算している。

【質問】合併の市民説明会の参加者総数が六回で二百四十六人だったが、どう評価しているか。【答弁】広報に努めたが、結果して参加者が少なかった。理由は、今回は編入合併で、佐賀市民のサービス水準は変わらないためではないかと考えている。

【質問】電算システム統合経緯が為替レートの変動で一億五千八百万円も増加しているが、事前に対応ができなかったのか。【答弁】これほど為替レートの変動によって増加するとは予測していなかった。

九月二十二日

第五回委員会

【質問】川副町下水処理場の現状と今後はどうか。【答弁】川副町の下水道は、佐賀市処理場での共同処理に向けて九月中を目途に有明漁連との放流協定の変更の手續の調整中である。下水処理場建設工事は、現在完全に中断している。

【審査結果】一市三町の法定合併協議会の設置及び設置に関する予算については、原案を可決すべきものと決定。

【質問】合併の市民説明会の参加者総数が六回で二百四十六人だったが、どう評価しているか。【答弁】広報に努めたが、結果して参加者が少なかった。理由は、今回は編入合併で、佐賀市民のサービス水準は変わらないためではないかと考えている。